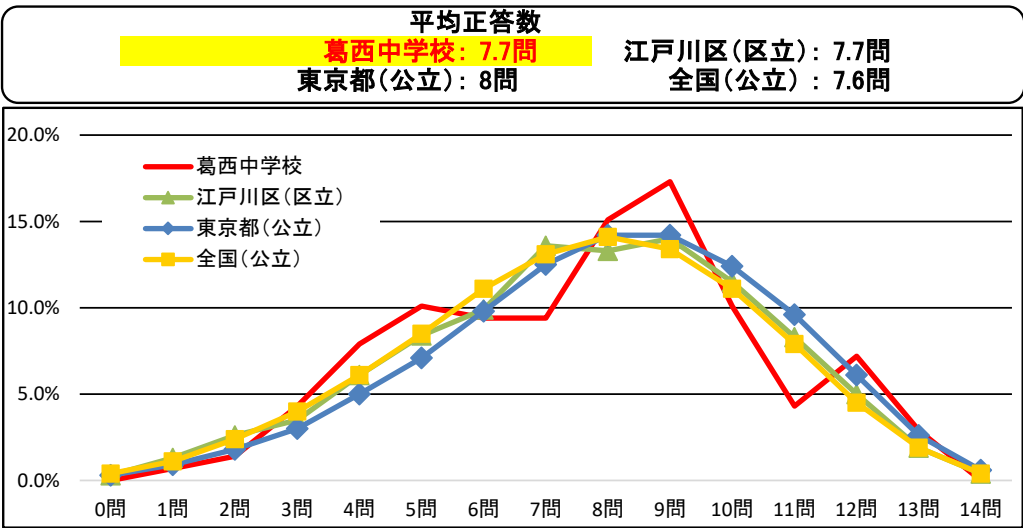


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 葛西中学校

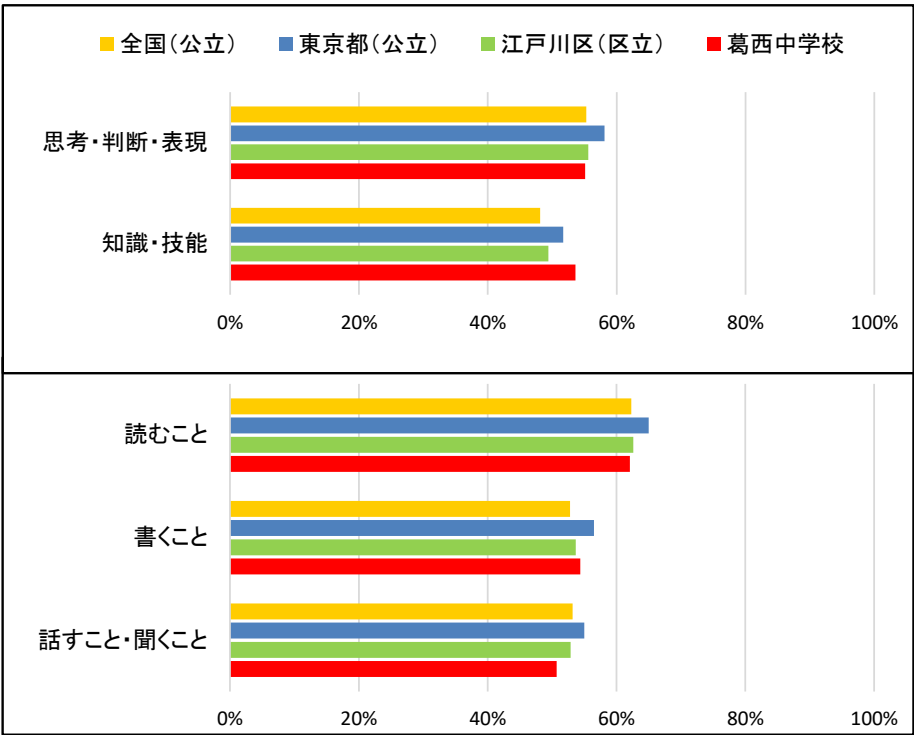
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

葛西中学校	55%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	-2.0

「領域別」の結果

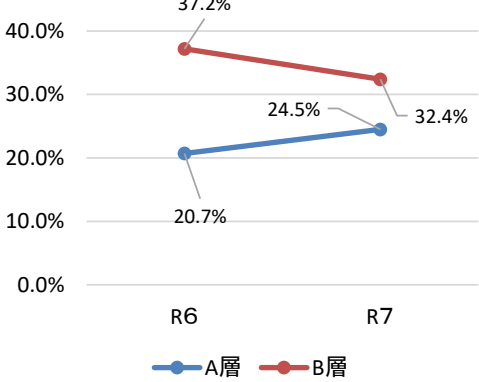


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

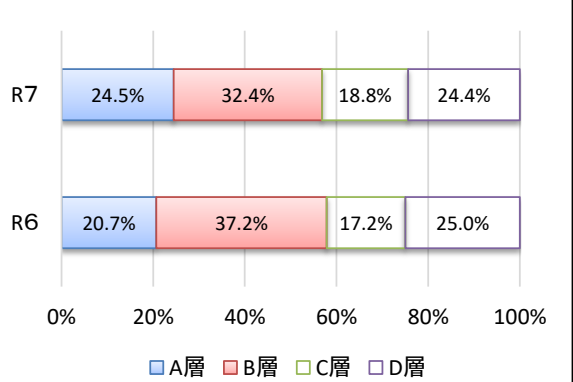
国 語	上位 A層 10～14問	B層 8～9問	C層 6～7問	下位 D層 0～5問
	葛西中学校 24.5%	32.4%	18.8%	24.4%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

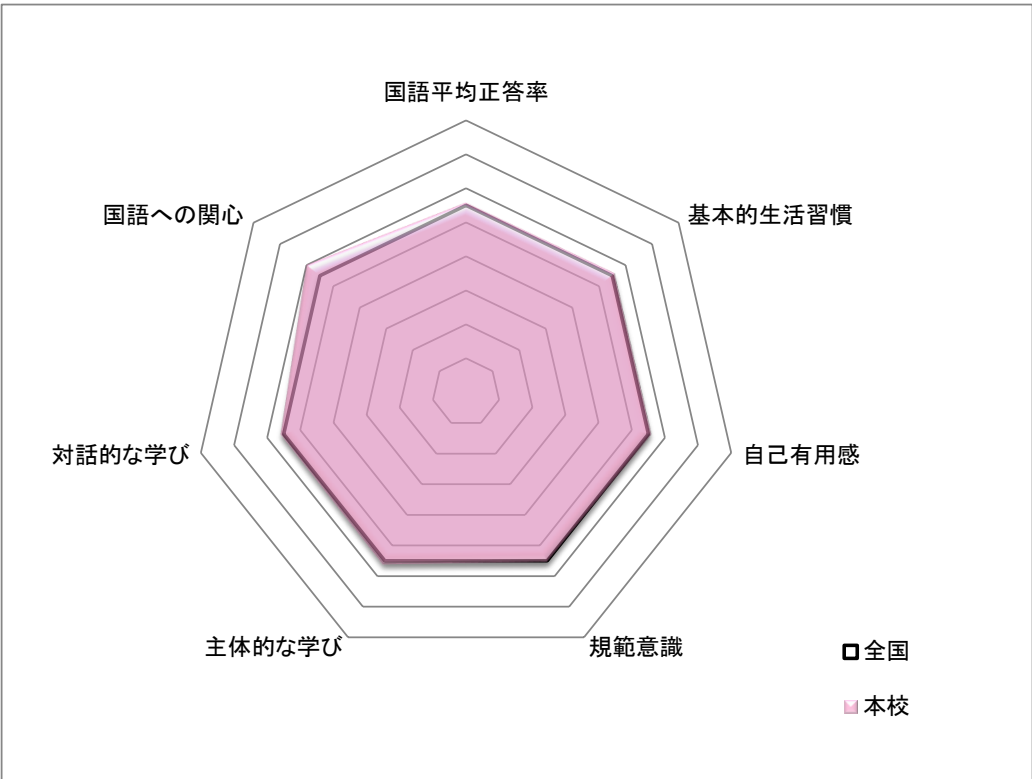
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

全体的に全国平均と同じような結果となっている。「国語への関心」は全国平均より高く、「国語の平均正答率」は全国平均より若干低い結果となった。基本的な生活習慣については全国平均並みではあるが、睡眠・食事の項目については、全国や東京都の結果より若干低い結果となっていた。

《家庭・地域への働きかけ》

生徒の基本的な学習習慣を家庭と学校と一体となって確立することで、基礎基本の学力を上げていくことが必要である。家庭学習の大切さや生活習慣・SNSや動画視聴の時間など、生活リズムについての重要性を呼びかけることを保護者会などで呼びかけ、基礎学力の定着を図る。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

本校の国語科におけるAB層の割合は56.9%で、全国より3.3ポイント上回っている。前年度比では、1.0ポイント下回っているが、概ね同水準で推移していると考えられる。学習指導要領の3領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」においては、「書くこと」の領域で、全国の平均正答率を上回っている。一方で「話すこと・聞くこと」の領域では全国の平均正答率を下回っている。また「知識・技能」の評価の観点の問題の平均正答率が全国平均を5.5ポイント、都平均を1.9ポイント上回っている。全体的に「知識・技能」の分野など、学習を反復して内容を定着させることについては、一定の成果がみられると分析できる。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

都教委訪問による指導案の作成や授業観察などを通して、授業がより充実するよう研修に努める。生徒による授業アンケートの推移も分析することで、生徒の実態に合った授業が展開できるよう工夫を重ねていく。区中研での研究授業や研修を通して、他校の実践も参考にしながら授業改善を推進していく。

・基礎学力の保障

まずは、基本的な内容の習熟を授業で図ることができるようにしていく。わかったつもりになるのではなく、学び合い活動などを取り入れた授業展開から内容をしっかりと定着できるようにしていく。改善案として、思考的な問題に取り組むなど学力向上させていきたい。またワーク等を使い、反復的に学習をさせ、内容を定着していきたい。

・学習習慣の確立

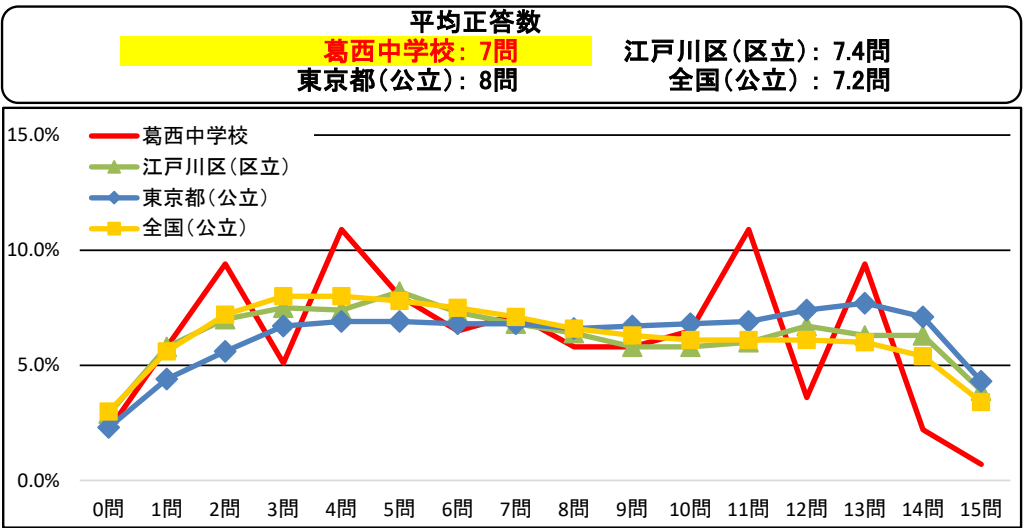
家庭学習を習慣づけるため、漢字・文法ドリルや一人一台端末のオンラインドリルなどを活用して、定期的に課題に取り組ませることを継続する。毎回の授業を振り返り、記録しまとめる活動を通して、自分の考えを表現するとともに、知識の定着につなげられるようにする。定期考査では、学習計画表を活用し、計画的な取組を実践させることを通して、学習習慣の確立を図っていく。

・AB層の育成

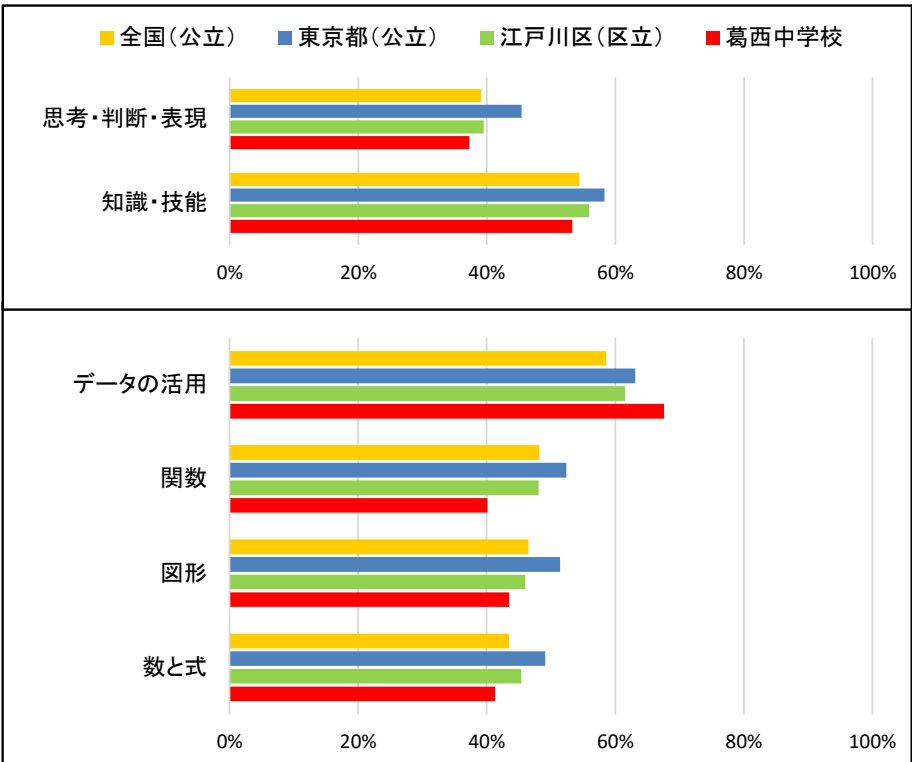
まずは漢字や文法など、基本的な知識を着実に獲得させることを継続して取り組んでいく。また、AB層を育成するために、記述式の問題の無解答率を減少させることも課題として挙げることができる。各単元において、グループ学習や意見の発表などの活動を積極的に取り入れ、課題解決を自分の言葉や表現で説明できるような取組を実践し、AB層の底上げを図っていく。

令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】 葛西中学校

正 答 数 分 布



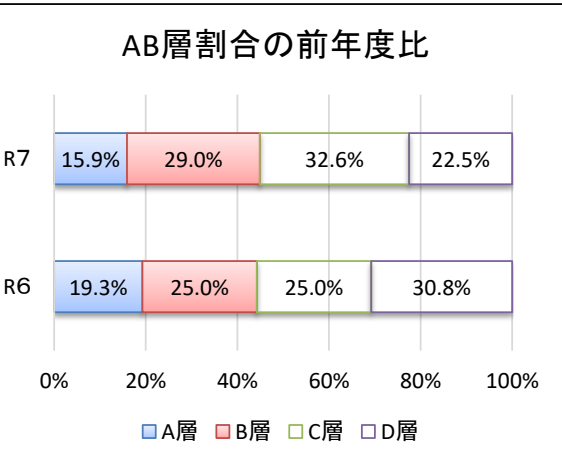
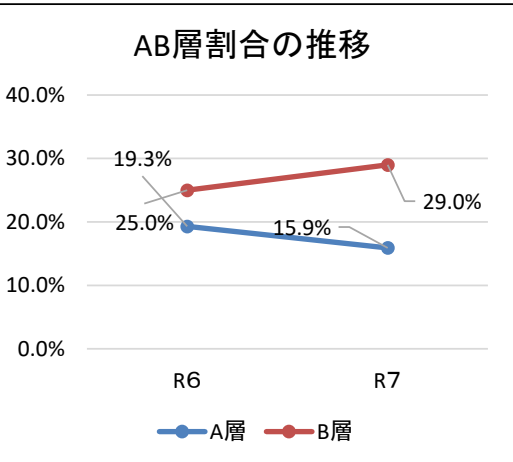
「領域別」の結果



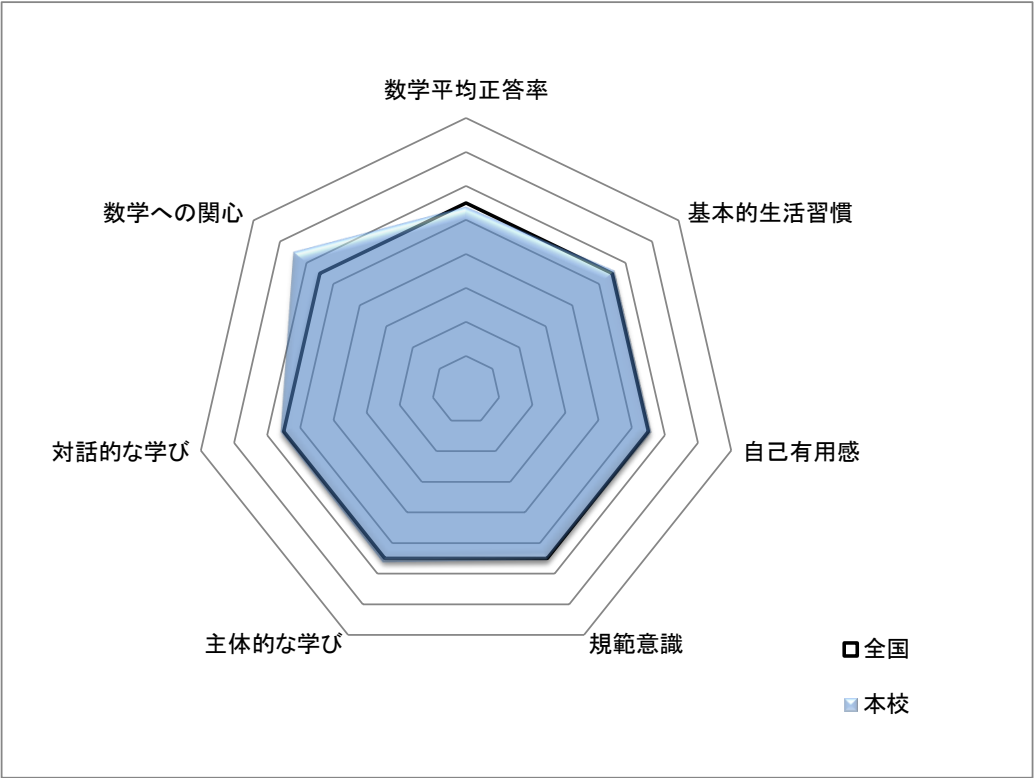
四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

数 学	上位 ← → 下位			
	A層 12～15問	B層 8～11問	C層 4～7問	D層 0～3問
葛西中学校	15.9%	29.0%	32.6%	22.5%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

全体的に全国平均と同じような結果となっている。「数学への関心」は全国平均より高く、「数学の平均正答率」は全国平均より若干低い結果となった。基本的な学習習慣については全国平均並みではあるが、睡眠・食事の項目については、全国や東京都の結果より若干低い結果となっていた。

《家庭・地域への働きかけ》

生徒の基本的な学習習慣を家庭と学校と一体となって確立することで、基礎基本の学力を高めていくことが必要である。家庭学習の大切さや学習習慣・SNSや動画視聴の時間など、生活リズムについての重要性を呼びかけることを保護者会などで呼びかけ、基礎学力の定着を図る。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

本校の数学科におけるAB層の割合は44.9%で、全国より1.1ポイント下回っている。前年度比では、0.6ポイント上回っているが、概ね同水準で推移していると考えられる。学習指導要領の4領域の平均正答率において、「関数」、「図形」の領域で全国平均を下回っている。また「思考・判断・表現」に関する問題の平均正答率も全国平均を下回っている。無解答率が高い記述式の問題が多いことも課題として挙げられる。どの分野にも共通した課題となっているのは、基本的な知識の習熟が不十分であると結果から分析できる。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

区の教科アドバイザーによる授業観察、都教委訪問による授業改善をはじめ、習熟度別の指導がより充実するよう研修に努める。生徒による授業アンケートの推移も分析することで、生徒の実態に合った授業が展開できるよう工夫を重ねていく。区中研での研究授業や研修を通して、他校の実践も参考にしながら授業改善を推進していく。

・基礎学力の保障

どの分野にも共通した課題となっているのは、基本的な知識の習熟が不十分であると結果から分析できる。まずは、基本的な内容の習熟を授業で図ることができるようしていく。習熟度別少人数授業の特性を活かし、わかったつもりになるのではなく、学び合い活動などを取り入れた授業展開から内容をしっかりと定着できるようにしていく。

・学習習慣の確立

家庭学習を習慣づけるため、週末課題や一人一台端末のオンラインドリルなどを活用して、定期的に課題に取り組ませることを継続する。毎回の授業を振り返り、記録しまとめる活動を通して、自分の考えを表現するとともに、知識の定着につなげられるようにする。定期考査では、学習計画表を活用し、計画的な取組を実践させることを通して、学習習慣の確立を図っていく。

・AB層の育成

「データの活用」の領域では、「複数のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する」で、正答率が高くなっているなど、記述式の問題では正答率が全国平均に近い問題もあるものの、無解答率が高い記述式の問題が多いということも課題として挙げることができる。各章において、習熟度に応じて、課題解決を文章や式で説明できるような取組を実践し、AB層の底上げを図っていく。